

芸術科（書道）における「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法リーフレット

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に対する先生方の思い・・・

綺麗な字が書けるようになることだけをめざして反復練習を繰り返すことだけを、生徒は『主体的』だと思っていないかな？



作品について生徒同士で**根拠をもって確かな言葉で批評し合う機会**があればいいなあ。

生徒には整えて書くだけでなく、**自由で個性豊かな表現**にも幅広く挑戦させたいなあ。

書の**伝統と文化を踏まえ**、表現を**構想し工夫する姿**が表れて欲しいなあ。



そんな思いにお応えするリーフレットです！教科に限らず、校内の皆さんでぜひご覧ください！

目次

- 府立学校 実践事例 書道Ⅱ「草書の書」 【p.2～5】
- まとめ：単元での観点ごとの総括的評価に際して 【p.6】
- 参考資料 【p.7～15】

単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> 	<p>書よさをや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。</p>	<p>主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通じて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

単元の評価規準（＝実現したい生徒の姿）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 草書の成立と特徴について理解している。（知表） 王羲之と王鐸の表現の違いを理解している。（知鑑） 行の流れを理解し、行幅・墨量の変化をつけ、直筆で、筆脈を意識して表現的臨書作品を制作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な行の流れや作品の構成について思考している。（思表） 他の人の表現を見て、表現的臨書の見地から、改善点を探したり、良いところを正しく批評したりしている。（思鑑） 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品を作るにあたり、改善点を主体的に探し、改善に取り組もうとしている。（態表） 王鐸の表現的臨書について、行の流れ等の特徴を理解し説明しようとしている。（態鑑）

単元の流れ

- 草書の歴史と特徴を理解する。
- 字典を用いて自分の名前と「臨」を草書で書く。（2時間）



- 王羲之の『秋月帖』と王鐸の『秋月帖臨書作品』の表現の違いを見つける。
- 王鐸の表現を参考に、王羲之の『龍保帖』の臨書用の草稿を鉛筆で書く。（2時間）



- 草稿を**互評し、他者の草稿にアドバイスを送る。**
- 他者からの**アドバイスをもとに改善点を明確にし、草稿を再構築する。**（2時間）



- 草稿をもとに半切に『龍保帖』の臨書を制作する。制作意図と草稿とともに、作品の解説を意見交換する。
- 作品を互評し、自分の作品を振り返り、清書する。（2時間）



詳しい単元計画はp.12をご覧ください

「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価の詳細と判断基準

(1) 評価場面：草稿完成後の振り返り（第5時）

詳細：

王鐸の表現的臨書の意味を理解したうえで、他者の草稿を評価したり、意見交換をしながら、自分の制作過程（初稿、完成稿）を振り返り、どのような改善があったかを具体的に記入する。【評価規準の（態表）の評価】



(3) 評価の進め方

【評価の進め方】

- ① 草稿について、生徒が自己評価をする。
- ② 草稿と自己評価を班の中で交換する。
- ③ アドバイス等を記入する。
- ④ アドバイスの記述を踏まえ、**自身で改善したポイントを書道の用語を使って記述する。**

(2) 判断基準

「十分満足できる」 状況(A)	「概ね満足できる」 状況(B)
自身の制作過程を振り返り、意見交換を踏まえて、 多くの具体的な 課題を見つけ、それを改善しようとしている。	自身の制作過程を振り返り、意見交換を踏まえて、課題を見つけ、それを改善しようとしている。

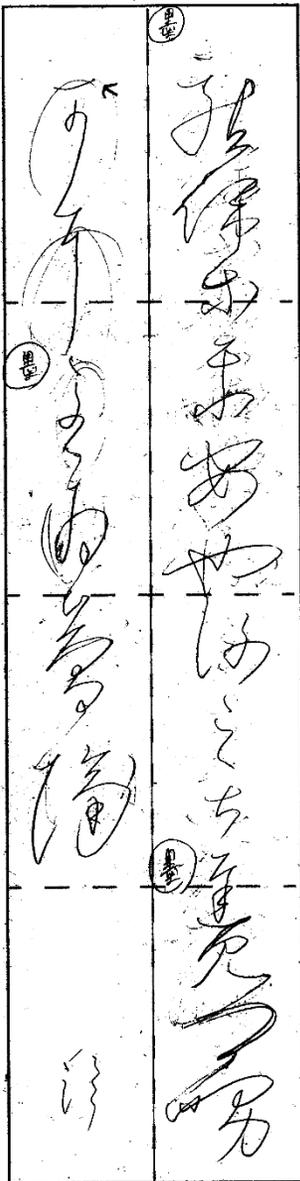
「努力を要する」状況 (C)と判断された生徒に 対する支援のてだて
他者の意見と自分の意見を比較させ、その違いについて理解を促し、草稿の改善に繋がられるようにする。

資料のページに生徒が自己評価や相互評価を記入した授業プリント（p.14）がありますので、参考にしてください。

評価例

(4)『生徒A』の振り返りと作品

【草稿の初稿】

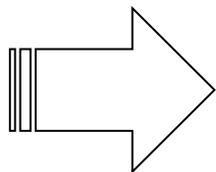


【相互評価で受けたアドバイス】

- 二行目の前半が幅の無い文字で、行幅に変化が無いなあ。
- 連綿していない文字も多いなあ。



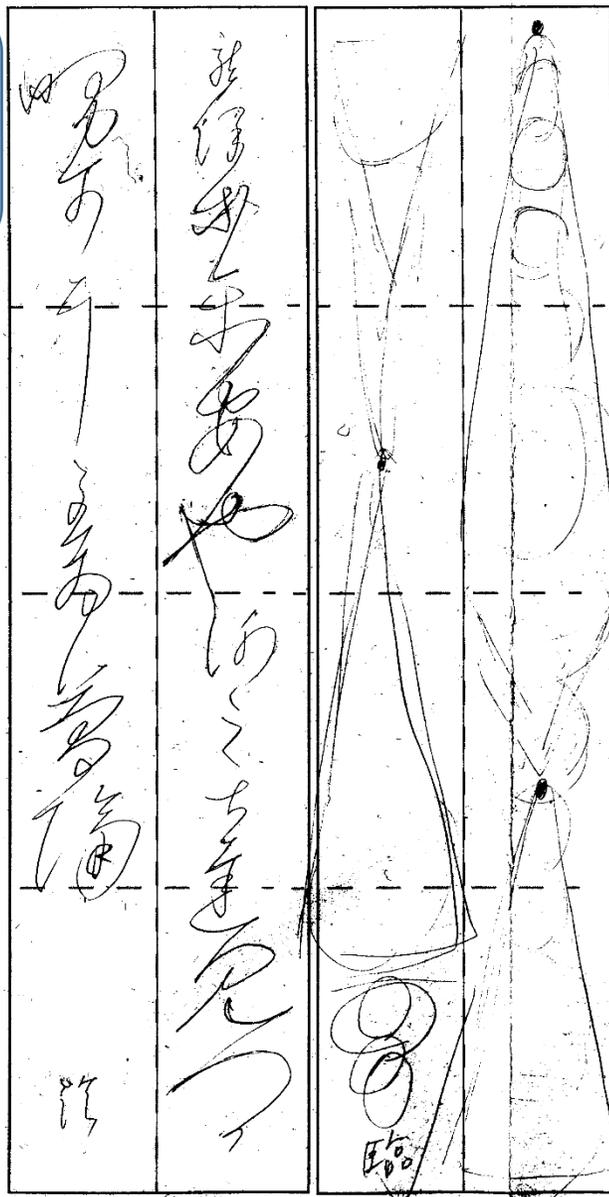
アドバイスを
生かすと



【アドバイスを踏まえた改善点についての生徒Aの記述】

- ① 行幅のコントラストが、ハッキリ分かるようにした。
- ② 連綿を意識して書くことができた。

【草稿の最終稿】



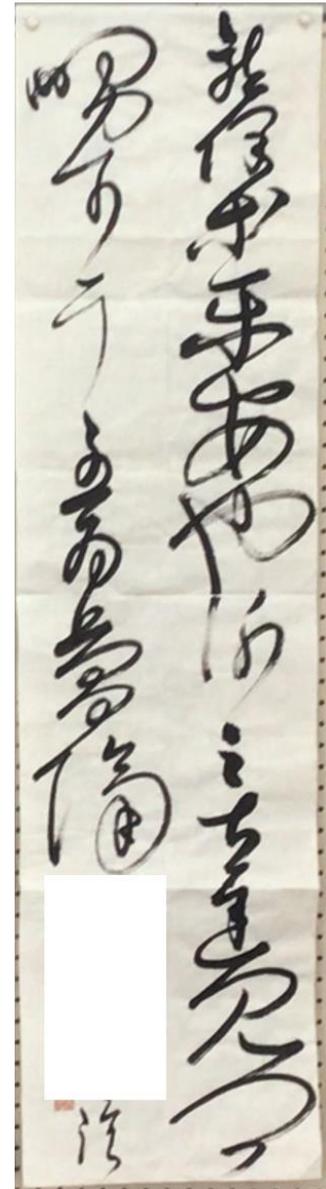
評価：



【教員による評価】

「初稿から課題を見つける」という自己認識が2つあり、
①は実際の作品に変化が見られるが
②についてはあまり変化が見られない。
しかしながら「課題を見つけ、改善に取り組もうとした」と判断できる。

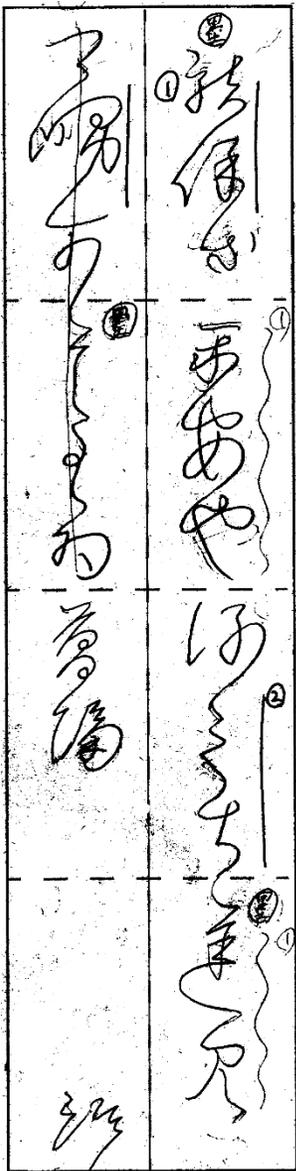
【参考：半切に書いた清書】



評価例

(5)『生徒B』の振り返りと作品

【草稿の初稿】

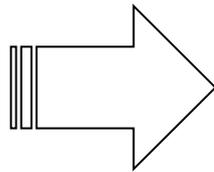


【相互評価で受けたアドバイス】

- 連綿が切れるところが多くて、流れにくく感じるなあ。
- 一行目の前半の行幅の変化があまりないなあ。
- 上の部分が一行目も二行目も広いので、行幅のコントラストがハッキリしないなあ。



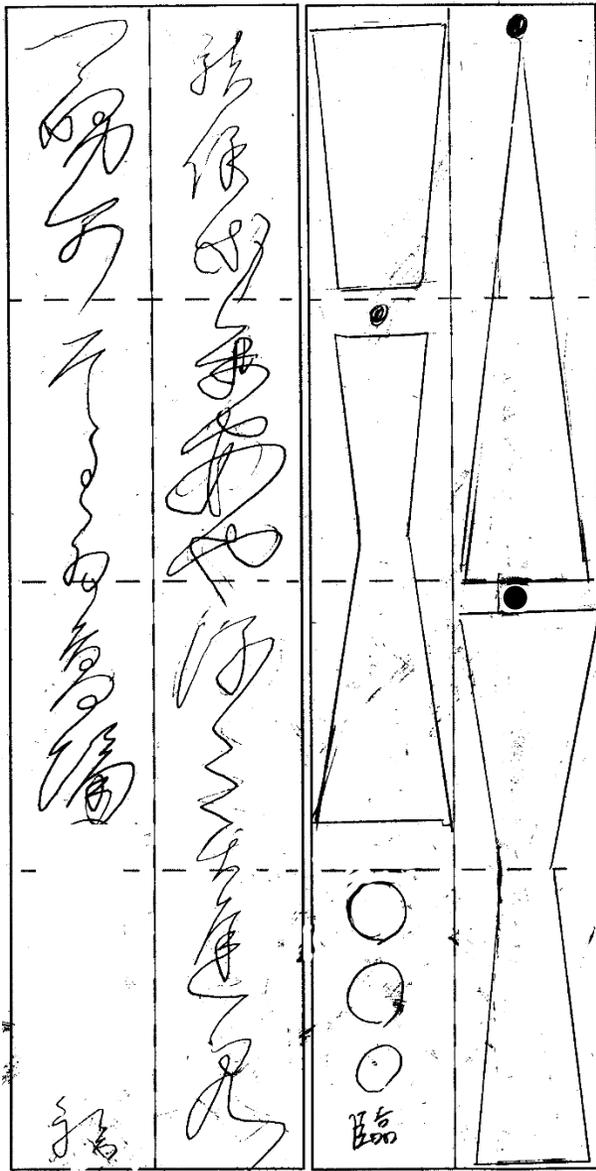
アドバイスを生かすと



【アドバイスを踏まえた改善点についての生徒Bの記述】

- ① 墨継ぎの位置を変えて繋げるところは繋げ、切るところは切るとハッキリさせた。
- ② 文字の大小、行幅の変化をととても意識して書けた。
- ③ 大きく書いた隣は小さく、またその逆も意識して書けた。

【草稿の最終稿】



【参考：半切に書いた清書】

評価：



【教員による評価】

「初稿から課題を見つける」という自己認識が3つあり、

①②③それぞれについて作品にも変化が見られる。

②③は行幅のコントラストとして同じ意味であるため、課題としては1つの扱いとしているが、「複数の課題を見つけ、改善に取り組もうとしている」と判断できる。



まとめ：単元での観点ごとの総括的評価に際して

芸術科（書道）の学習では

単元を通しての毎時間の反復的な活動の積み重ねによって学習を深めていくことが多い！



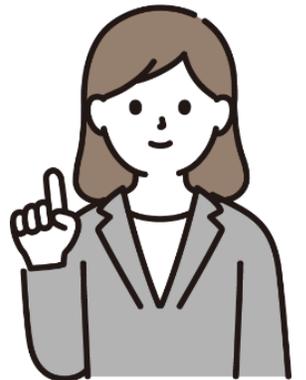
学習を深められるように教員は、

- 「形成的評価」を適宜継続して行う
- 他の人からアドバイスをもらったり批評し合うなど、**言語活動の機会を設ける**
- アドバイス等を踏まえて、さらに作品の**完成度を高める機会を設ける**
- 作品の完成だけでなく、そこに至る過程を評価するためにも、制作の意図を記述したり、**学習を振り返ったりする機会を設ける**

ことが重要です。

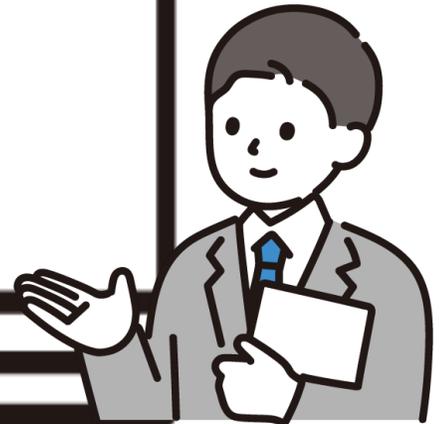
それにより

- 作品を完成するにあたり、**どういう意図をもって制作をしたか**
- 作品の完成後に、**どういった点を工夫したか**などを記述させたり、記述内容と作品を見比べることで主体的に学習に取り組む態度の評価をすることができる。



参考資料

- (1) A表現・B鑑賞を一体的に捉えた学習過程のイメージ図
- (2) 共通事項について
- (3) 芸術（書道）の評価の観点及びその趣旨
- (4) 主体的に学習に取り組む態度と「A表現」・「B鑑賞」の関係
- (5) 「A表現」と「B鑑賞」の複合型の単元における指導と評価の計画のポイント
- (6) 実践事例における単元の指導と評価の計画
- (7) 実践事例において使用した授業プリント
- (8) 参考となる資料やWebサイトの紹介



各科目の内容を「A表現」、「B鑑賞」、**〔共通事項〕**に分類

〔共通事項〕は「A表現」及び「B鑑賞」の学習において**共通に必要な資質・能力**

つまり、「(1)漢字仮名交じりの書」、「(2)漢字の書」、「(3)仮名の書」及び「B鑑賞」の学習に**共通の支えとなる知識**であり、**書の特質や書的美を捉えて表現したり鑑賞したりする上での観点**というべきもの

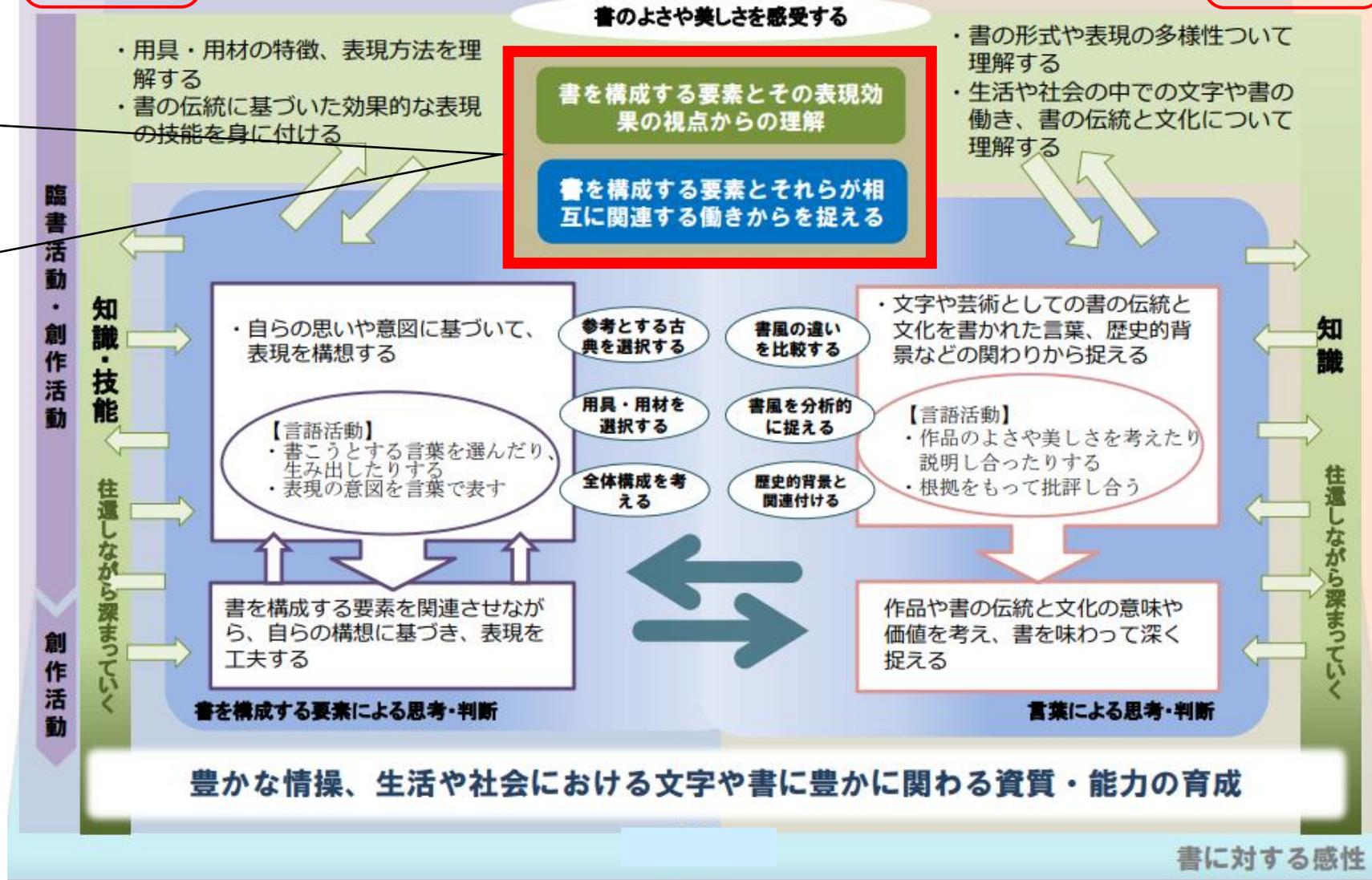
〔共通事項〕は、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、またそれらの指導を通して適切に指導する必要があります。



A
表現領域

書表現との出会い

B
鑑賞領域



〔共通事項〕の四つの視点

書の特質及びそれにより生まれる書によさや美しさを理解し捉える上での観点

①時間性と運動性、②書の表現性、③書を構成する要素、④造形性と空間性

〔共通事項〕

ア 用筆・・・運筆から生み出される書の**表現性**とその**表現効果**との関わりについて理解すること。

イ **書を構成する要素**について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。

〔共通事項〕におけるキーワード

表現性

言葉による記録・伝達の機能を保ちながら、「いかに伝えるか」を意図し、「書を構成する要素」の特性を効果的に働かせ、より美しく、より豊かに伝えるために活用し工夫される書独自の表現上の特質のこと。

- 用筆・運筆から生み出される太細、強弱、遅速、緩急等の主に「線質」に関わる「**変化**」
- 用筆・運筆における「**律動**」
- 「運動性」の背景となる「**性情**」等

表現効果

様々な書特有の「表現性」が重層的・複合的に複雑に合わさることによって生まれる、美を美たらしめる表現上の効果のこと。

書特有の「表現性」の働きに加え、鑑賞される場や方法・形態や、表装の効果などにも影響を受け、また、鑑賞者の鑑賞力にも左右されながら成立しうるもの。

- 「**紙面上の造形的な調和**」
- 「**題材となる言葉と表現との調和**」
- それらが鑑賞されることで捉えられる「**風趣**」等

書を構成する要素

- 用具・用材の特性や用筆・運筆から生まれる「**線質**」
- 書風を形づくる「**字形**」
- 文字構成、全体の構成等の「**構成**」
⇒「**墨色**」や「**余白**」を含めて考えることもできる。

A表現、B鑑賞の学習を通じて、積極的にこのような視点や用語を生徒に示していきましょう。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ● 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ● 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の<u>表現</u>及び<u>鑑賞</u>の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

「B鑑賞」では「作品の価値とその根拠」、「生活や社会における書の効用」などについて考えることとされています。生徒が生涯にわたり楽しく書に関わり、書のよさや美しさを語るができるようにするという視点から、鑑賞の授業を工夫し、「A表現」と「B鑑賞」の相互関連を常に意識しながら生徒が能動的に学習できるようにすることが大切です。



「A表現」・・・自身の活動を振り返り見通しを立てながら試行錯誤を繰り返し、粘り強く取り組もうとしている様子や、作品や書のよさや美しさを感じながら自身の表現の意図に基づいて、よりよい表現の実現に向けて構想を練り直し、効果的に表現を工夫しようとしている様子を見取る。



「B鑑賞」・・・作品や書のよさや美しさを感じながら、見方・考え方を主体的に働かせて、書を構成する要素や表現性、表現効果や風趣等の観点から分析的に捉えようしたり、作品や書のよさや美しさ、書の伝統と文化の価値について考えたり生活や社会の中での書や文字の意味や価値を見出すことに主体的に取り組もうとしたりしている様子を見取る。



参考資料（５）「A表現」と「B鑑賞」の複合型の単元における指導と評価の計画のポイント

学習活動		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	思	態表	態鑑
展開1	鑑賞①（生徒作品例）					
	言葉の選定			◎		
	観点の確認①					
	構想・工夫①					
	作品制作①（作品① 草稿）		↓			
	鑑賞②（作品① 草稿）					
	意見交換①					
	観点の確認②					
展開2	構想・工夫②					
	作品制作②（作品②）		◎		◎	
	鑑賞③（作品②）					
	意見交換②					
	観点の確認③					
	構想・工夫の見直し②					
展開	鑑賞④（名筆・現代の書）					
	意見交換③	●				
	観点の確認④					
	構想・工夫の見直し③					
	構想・工夫③					
	作品制作③（作品③）					

●：評価場面：記録に残す場面、◎：指導に生かす評価を重点的に行う場面
↓：評価の継続性

ポイント①：作品を制作していく過程での学習状況を見取る。

（例）

- 制作途中の作品
- 学習に取り組む様子
- 表現の工夫 など

ポイント②：指導と評価を一体的に捉えて行う。

単元の目標に対する実現状況を見取り、指導・評価することで、指導の改善・調整も図りながら、生徒一人ひとりが一連の学習過程・学習活動の中で段階的に学習を進め、目標に示した資質・能力を確実に身に付けられるようにする。

参考資料（6）実践事例における単元の指導と評価の計画（全8時間）

◎…形成的評価、●…総括的評価 ↓…評価の継続性

時	学習内容・学習活動 [何をどのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】 (評価方法等) [何ができるようになるか]
		知	思	主	
1・2	<ul style="list-style-type: none"> 草書の歴史と特徴（直筆・ノンストップ）について理解する。 字典を用いて自分の名前と「臨」を草書で書く。 王羲之の「龍保帖」を臨書する。 	◎			<ul style="list-style-type: none"> 正しい文字を草書で書く技能を身に付けている。【技】 字典を用いて自分の名前を検字し、草書で書く技能を身に付けている。【技】 (全て行動観察)
3	<ul style="list-style-type: none"> 王羲之の『秋月帖』と王鐸の『秋月帖臨書作品』の表現の違いを見つける。 王羲之の『秋月帖』と王鐸の『秋月帖臨書作品』の表現の違いを書き出し、班で共有する。 			◎	王羲之の『秋月帖』と王鐸の『秋月帖臨書作品』の表現の違いについて理解しようとしている。【主】(行動観察)
4	王鐸の表現を参考に行の流れを理解し、行幅・墨量の変化を試行しながら、王羲之の『龍保帖』の臨書用の草稿を鉛筆で書く。		◎		行幅や墨量の変化を意識して草稿をつくることができる。【思】(行動観察)

5	<ul style="list-style-type: none"> 草稿を互評し、意見交換をする。 他者の草稿にアドバイスを送る。その中で、自分の草稿の改善点を発見する。 	● 表鑑	● 鑑	● 鑑	<ul style="list-style-type: none"> 王羲之の『秋月帖』と王鐸の『秋月帖臨書作品』の表現の違いを理解している。【知】 他者の表現を見て、改善点を探したり、良いところを正しく批評している。【思】 主体的に他者の作品を批評したりアドバイスをしたりしようとしている。【主】 (全てワークシートの記述)
6	自分の草稿の初稿を元に、他者のアドバイスを踏まえて改善点を明確にし、行幅等に留意しながら草稿を再構築する。			● 表	他者のアドバイスをもとに、効果的に見せるための表現技法を用いながら草稿を再構築しようとしている。【主】(ワークシートの記述)
7	<ul style="list-style-type: none"> 草稿をもとに半切二行に『龍保帖』の作品を制作する。 制作意図と草稿とともに、作品の解説を意見交換する。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> 自分の制作意図を説明することを通じて、ねらいを明確にすることができる。 意見交換を通じて、さらに意図に沿った作品を制作することができる。【思】(全て行動観察)
8	作品を互評し、自分の作品を振り返るとともに清書する。	● 技	● 表	● 表	<ul style="list-style-type: none"> 墨量や線の太細・行幅に留意しながら、作品を制作することができる。【技】 制作意図に応じた構図をイメージすることができる。【思】 振り返りを踏まえて、構図と制作物が関連するように作成しようとしている。【主】

授業プリント①

草書 王羲之と王鐸の臨書

●臨書とは

書の古典を学ぶこと。鑑賞の深化を図り、技術を習得し、書作の原理を理解し、創作活動への自己の成長を図る。

書には目に見える形と、見えない用筆や、情緒がある。

●形臨 その書の形を忠実に写すことで、もっぱら技術面の習得を図る。つまり目に見える形を追求する。

●意臨 その書の形に重きを置かず、もっぱらその書的情緒をとり、その作の精神、気持ち表現するに重点を置く。

★この王鐸の表現的臨書作品の特徴をあぶり出そう。王羲之の秋月帖と比べ、違うところ、格好良いところを探して、教員に分かるように記入する。王羲之と比べなくても、王鐸の臨書作品の良いところも書きだそう。

【主体】

①王羲之の特徴

②王羲之と王鐸の臨書を比較して

③王鐸の特徴



「主体的に学習に取り組む態度」の育成につながるための「問い」を提示する。

草書臨書作品草稿

王鐸さんを真似て、龍保帖をブラブラ連綿で臨書作品を制作してみよう。
 ①筆に墨を付けるのは3回だけ。②文字は、可能な限り連綿する。
 ③滲みとカスレ（潤滑）のコントラストを付ける。④行の流れを作る。
 ⑤行幅も、コントラストをきかせる。

十七帖（龍保帖） 東晋 王羲之 墨継ぎ（墨）

授業プリント②

自己評価（◎ ○ △ ×）
 ①筆に墨を付けるのは3回だけ。（◎◎）
 ②文字は、可能な限り連綿する。（◎◎）
 ③滲みとカスレ（潤滑）のコントラストを付ける。（◎◎）
 ④行の流れを作る。文字が小から大へ、大から小へ、三文字以上かけて変化する。（◎◎）
 ⑤行幅も、コントラストをきかせる。（◎ ○ △ ×）

支援者（ ）組（ ）番書道番号（ ）
 名前（ ）
 チェックポイント（特徴）について
 アドバイス【知・技】【思・判・表】

支援者（ ）組（ ）番書道番号（ ）
 名前（ ）
 チェックポイント（特徴）について
 アドバイス【知・技】【思・判・表】

部分的な所については、赤ペンでもう一枚の草稿に直接記入すること

部分的な所については、青ペンでもう一枚の草稿に直接記入すること

清書の草稿を書いた後に記入。アドバイスを受けて、表現をどのように改善しましたか。具体的に自分の言葉で書きなさい。

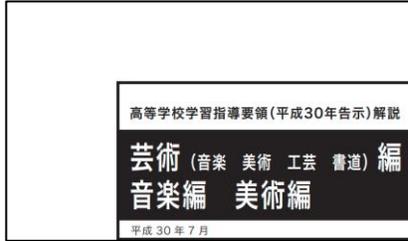
【思・判・表】 【主体】

授業プリント③

参考資料（8）参考となる資料やWebサイトの紹介

- ・高等学校学習指導要領解説 芸術編

https://www.mext.go.jp/content/1407073_08_2.pdf



- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 芸術（書道）

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_shodou.pdf



- ・「観点別学習状況の評価」実施の手引き 各教科事例集

<https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/pdf/kanntenbetsu%20.pdf>



- ・NHK高校講座 書道 I

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/shodou/>



全20回に分かれています。動画コンテンツを見たり、テーマに即した学習メモがダウンロードできたり、動画コンテンツをみた後の理解度の確認がWeb上でできます。